

**【課題】**

世界の失明人口は4,400万人。2050年には1億2,000万人に上ると言われている。その多くは予防・治療可能な病状にもかかわらず診察できる眼科専門医が身近にいないことが原因だ。「世界の失明の50%を減らす。」そんなミッションを掲げる医療ベンチャー OUI Inc.はこの問題を解決したいと考えた。

2050年の世界の失明人口 **1億2,000万人**

**【解決方法】**

着目したのは、患者のそばの様々な医師たち。もし彼らが専門的な眼科診察ができたなら？ Smart Eye Cameraは、スマホ一つで眼科診察ができる。スマホのライトを診察用の光に変えるガジェットを装着し、患者の眼を撮影すると専用アプリで眼科医が遠隔診察。白内障などの疾患を、眼科医でなくても発見できる。いわば、内科医も外科医も小児科医も、世界中のあらゆる医師を、眼科医に変えるツールなのだ。

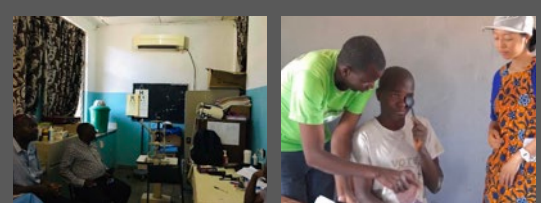
# Smart Eye Camera

すべての医師を、眼科医に。

**【結果】**

眼科医療が行き届かない約60カ国の地域で導入。世界約10万人の眼科診察を実施。多くの人々を失明のリスクから救ってきた。PR費ゼロで約50もの国内外のメディアで紹介。国内外の医療関連のアワードも受賞。誰もが眼科医療にアクセスできる世界へ。その活動は始まったばかり。

導入地域 **約60カ国** 掲載メディア **約50件**



眼科診察の高額な機器を導入するのは難しい海外の医療現場。



3Dプリンタで制作可能なので、医療現場に導入しやすい。